

歯は口より、 ものを言い!?

小池デンタル
クリニック発



保険外治療費は
歯医者ごとでなぜ違う?

歯科医院で支払う治療費ですが、保険の範囲で治療を行う場合はどこの歯科医院を受診しても治療費は基本的に変りません。ではなぜ保険の範囲を超えた精度の高い治療を受けた場合には、歯科医院ごとで治療費が異なるのでしょうか?

インプラントを例に話しましょう。



※イラストは「デンタルフラッシュ3 (株)Cyberデジタル」より引用改変

インプラント治療を行うには、簡略に説明すると、

- [A] 診査・レントゲン(CT)・診断
- [B] 手術
- [C] インプラント体(フィクスチャー)
- [D] アバットメント
- [E] 仮歯(仮歯本体、仮歯調整料)
- [F] 型取り(専用トレー、材料を使用)
- [G] 咬み合わせ(顎の位置と歯並び、顎の動きを記録)
- [H] 色あわせ(機械で読み取り歯にあわせて色を作ります)
- [I] クラウン(最終的なかぶせ物)

といったことを行います(※当クリニックでの一例です。状態などによって手順は変わります)。

では、『インプラントの料金は?』といった場合、

①: [A]+[B]+[C]=15万円

と表記し、[D]~[I]はそれぞれ別途料金表示する歯科医院もあれば、

②: [A]+[B]+……[H]+[I]=35万円

のように全て包括して値段を表記する歯科医院もあります(※価格は参考です)。

①と②では①の歯科医院の方が安価に感じますよね?

しかし[D]~[I]の料金によっては①の方が高価になってしまいます。

また、『インプラント』とひとくくりに言いますが、『車』、『洋服』、『飲食店』などと表現するのと同じで、『高価だがしっかりしている』、『そこそこ』、『安価が売り』などの色々なメーカーの各種のインプラントがあります。

ちなみに世界で最も長期の臨床実績を誇り、最大のシェアをもつインプラントは『ノーベルバイオケア(Nobel Biocare)』というスイスのメーカーで、海外での再治療やメンテナンスが必要になった場合でも安心の保障システムを有しています。インプラントのメーカーは世界で200社以上ありますが、専門医の間で世界標準といえるのはわずか数社で『ノーベルバイオケア』を筆頭とした5社程度です。

以上のことからおわかりいただけるかと思いますが、世の中の他の商品と同じで、『価格』と『品質』は基本的に相関しています。簡単に言えば『ファミレスのステーキセット』と『専門店のステーキセット』では『肉』も『値段』も違いますよね?

インプラント以外の保険外治療でも、当然歯科医の技術やこだわり(ちなみに歯科や医科には『学位(博士号)』、『専門医』といった知識・技術を証明する肩書きがありますので、来院の際には参考にしてください)、使用する材料の品質などが価格に反映されます。そして、治療価格の表記の仕方も①や②のように歯科医院によって違うため、保険外治療費は異なってしまうのです。

おわかりになりましたか?

保険外治療をする場合は、『価格』と『品質』とをしっかり吟味して、自分にあった治療をしてくれる歯科医院を見つけてください。

院長 小池秀行

歯学博士 日本補綴歯科学会専門医

※歯が欠けたり失われたりした場合に、かぶせ物、差し歯、ブリッジ、入れ歯(義歯)、インプラントなどの人工物で補い、機能・審美を回復することを専門とし、学会で認められた歯科医師です。

社団法人日本補綴歯科学会 <http://www.hotetsu.com/p1.html>